

UIFA JAPON

NEWSLETTER

■主な内容

日本大会準備進捗状況

UIFA日本大会準備ワークショップ1

ワークショップ1 各グループからの報告

第10回海外交流の会

助成研究報告発表会レポート

「すまいをめぐる女性-女性建築家の戦後史を辿りながら-

ドキュメント1 -UIFA日本大会に向けて(1996年11月22日~1997年1月15日)-

■日本大会準備進捗状況

田中 厚子

1月15日のUIFA日本大会準備ワークショップ終了後、日本大会事務局を兼任されている総務担当の松川理事に、日本大会準備の現在の進行状況についてお話を伺いました。

—まず開催地ですが、東京か横浜か決まっていないことが不安ですが、いつ頃決定するのでしょうか？

松川：本当に急がなければなりません、現在、具体的にいくつかの候補施設に打診している段階です。1月中には決定したいと思っています。今日の資料の中にあるマスタースケジュールを3月までに詳細化し、4月には世界各国にアナウンスしなければなりませんから。

—寄付や後援の進行状況はいかがですか？

松川：建築士会連合会、東京建築士会、建築家協会から後援の内諾を頂いています。これを正式に承認して頂くと同時に、引き続き建築学会などにもお願いしていこうとしています。寄付の方はこれからですね。会員の皆さんの力をお借りして、総力をあげて取り組まなければなりません。でも、今日のワークショップの熱気のなかで、会員の皆さんのパワーを感じ、なにかできそうな気がしてきました。ワークショップ参加者を中心に声をかけて、どんどん作業を進めたいと思います。皆さん、宜しくお願いします。

—今日のワークショップで出た意見のなかに、会員全員が何らかの役割につくのがいいのではないかと、という意見が出ていましたが、どう思われますか？

松川：大賛成です。今すぐ始まる長期的な役割や、大会当日だけの単発ボランティアなど、関わり方はいろいろだと思いますが、全員がそれぞれ得意な分野で活躍できることが理想ですね。あと1年半しかありませんから、山のような仕事をこなすには全員が参加するしかないともいえます。皆さんの方からも積極的にお申し出ください。

—本当に私達は大事業をするわけですね。ありがとうございました。

■UIFA日本大会準備ワークショップ1

吉田 洋子

いよいよUIFA日本大会が来年とせまってきました。せっかく日本で開かれるのでできるだけ多くの人に参加してもらおう、皆の知恵やアイデアを出してもらいたい。そんな思いで1回目のワークショップを開きました。予想以上の反響で当日の参加者は46名、皆の関心の高さもわかって身のひきしまる思いでした。正直にいてここまでの人数となるとは思ってはず、そのため会議室が狭くて申しわけなく思っています。

わいわい！ガヤガヤ!! ♪ みんなでやろう・国際会議のノウハウづくり 1997年1月15日(水) 於：豊島区立生活産業プラザ

1. くじ引きとグループ分け
2. 挨拶 <UIFA JAPON副会長 小川信子>
3. ワークショップのやり方説明
4. グループ作業(まとめを含む)

第1グループ 組織と支援、第2グループ 広報

第3グループ プログラム、第4グループ おもてなし

5. コーヒーブレイク、UIFA ハガリ-大会ビデオ上映とくじの発表
6. 全体討論(まとめの発表)
7. まとめ(総評) <UIFA JAPON会長 中原暢子>

各グループ共とても幅広いアイデアが出て皆で日本大会のイメージが少しは共有できた日になったのでは？と思いました。皆様協力ありがとうございました。また実行委員として動いてもいいという方も多数現れて心強い限りです。これからも、会議のイメージを深めていくワークショップを続けていきたいと思っています。



■ワークショップ I 各グループからの報告

グループA (組織と支援)

沖山 奉子

(1)組織について

世界大会をどういう体制で行うかについては、①会員、②賛助会員、③ボランティアが必要であるとの意見にまとまった。今後会員や理解者を増やしていく必要があるが、そのためにはUIFAの目的であるとか、意義であるとか、啓蒙できる文書やパンフレットが必要であるとの声があつた。また、ボランティアをお願いする際には、大会当日まで仕組みに添った育成を行う必要がある。例えば、通訳ボランティアなどは、日本の歴史であるとか、建築の基本的な知識であるとか……どの通訳についても同じ答えが返るようにするべきであるとの意見があつた。

(2)支援について

資金集めの体制としては、①財団法人等の補助金を利用する、②企業などに寄附を呼びかけることと思われる。企業に寄附を呼びかける場合、なんらかの対価を払うことも必要ではないか。例えば、寄附金を供出した企業は見学コースに組み入れるとか、会社のPRを行える展示コーナーを設けるとか。

(3)参加者ができること

参加者ができることとしては、会員一人一人が必ず何かの仕事に携わることが目標とするにはじまって、ボランティアの呼びかけやおもてなしの企画に参加したい、なんの役目でもよいから引き受けるなど、積極的な発言があつた。

グループB (広報)

小渡佳代子

ワークショップは「人を集める方法」について“楽しい参加”をキーワードに行われた。最初にUIFAの関わりと自己紹介を行ったが、今までにUIFAの大会に出席した人の思い、これから参加しようと思っている人からは『情報交換の場』『フランクなパーティの場』『発表の場』にしたいなど、日本大会に向けて色々な思いが熱く伝わってきた。

ワークに入る前に、日本大会のイメージについてペーパーに記入してもらい話し合うと『なぜ女性の会議なのか?』『どのくらいの規模をイメージしているのか?』とか、“環境共生時代の人、建築、都市”のテーマについて、例えば、『バリアフリーの環境』『女性の環境』『日本に昔からあった環境共生』『機械や電気の力を借りない環境』等、もっとわかりやすい具体的なテーマ、個人が参加しやすいテーマの必要性があるという意見が多く出た。

人を集める方法のアイデアラッシュでは、各人のネットワークを書き出したが、活用方法となると、やはり会議規模や参加費、会場、テーマ等イテを確定していく必要性が先ということになった。

主体的に“楽しい参加”をするには、『日本で開かれるメリットを活かして、是非スピーチを』『パネルを有効に使った参加を広く呼びかける』『各自の欲しい情報をペーパー等で世界に呼びかける』等話し合われた。結局、「いいテーマ作り、魅力的なプログラムを作れば人は集まる」となった。



グループC (プログラム)

東 由美子

自己紹介の後、まず国際会議に何を期待するかを話してもらった。ほとんどの人が、堅苦しくない交流の場にしたいという意見だったが、グループの中に釧路での環境国際会議に出席した学生さんが2名いて彼女たちの経験談が注目を集めた。この会議では会場となった釧路まで東京から船で行くコースがあり、まず船内で親密な交流が持てたということだ。

2番目にテーマについての具体的なイメージを出してもらった。1番多かったのは「先人の知恵、あるいは民家に学ぶ」というもの。その他には「建材と健康」「バリアフリーとは?」「情報を使いこなすには」「女性建築家の社会環境」「OMソーラー」「都市問題」等が出された。

3番目に形式については、早いうちに何かワークショップのようなグループ作業をすると親密になれてよいという意見が出され、1つのアイデアだと思った。その他に「パネルディスカッション」「一般の人に女性建築家の仕事をアピールしたい」等の意見が出された。

エクスカージョンとしては川崎民家園、女性建築家の自邸、三景園、新宿副都心、臨海副都心、下町路地等が挙げられた。

一人一人がいきいきとアイデアを出してくれ、楽しく有意義なワークショップだったと思う。ボランティアの申し出もたくさんあり、これを力にしていければと感じている。

グループD (おもてなし)

渡辺喜代美

「おもてなし」グループは総勢11人。福岡県からわざわざ上京した久保さんもいたり、ベテランの国際交流の体験者もいて、にぎやかに経験と知恵が出された。

宿泊、ホームステイ、自由時間のお付き合い、ポストコングレスツアーや大会記念品、プレート、バック、あるいはパーティーやアトラクションまで「おもてなし」の領域は広く、ワークショップは発想の多様さが実に良く出て、実施に役立つものも多く楽しかった。

問題は日本の物価高は世界で国際会議の大ネックであること。参加各国の経済格差をどう受け止めるか。経験談も交えての意見交換の結果は、格差をどのように支援するかである。ピンキリなしの皆同質の気持ち良い対応が望ましい。ホームステイは活用したい。アンケートでは自宅ステイOKと応えた人が7人もいて心強い。

「おもてなし」のテーマ性については、日常の暮らしを通しての生活文化や都市と田舎、伝統と新しい創造といったバランス良い組立が必要だとされた。ツアーは、女性の働く場や、女性建築家の作品ツアー要素から、ポストコングレスツアーは、北海道から九州まで伝統に根差したものや、新しいものなどが候補に上がった。パーティーは、ふれあいを中心に、美しい庭園のある施設の候補が提案され、食事の場所マップ化や安くておいしいお店の紹介といったアイデアから、花、茶、書といった体験コースに協力可という会員もいる。会員の多様性は、大いに国際会議に発揮されるだろう。



■第10回海外交流の会

—UIFA JAPON日本大会開催に向けて—

柏原 雪子

昨年11月30日、新宿オゾンにおいて第10回海外交流の会が開かれました。出席者30名による活発な意見が出されましたので、その概要を報告します。

まず中原会長の挨拶に続き、渡辺喜代美理事からスライドを用いたハンガリー大会の概要が報告されました。続いて会員の板東さんと柏原がハンガリー大会で撮影した映像を、16分にまとめたビデオの上映がありました。休憩をはさんで、山田規矩子理事からスライドを使ったUIFA世界大会の歴史の説明があり、そのあと日本大会開催についての自由討論会に移りました。自由討論は吉田洋子理事の司会で、参加者全員が順番に意見を述べるという形式で行われ、ハンガリー大会での感想をふまえて、日本大会への様々な提案が発表されました。

1) 大会スケジュールについて

- 自由時間を1日以上とりたい

2) 大会会場について

- レセプションの会場をホテルの近くに作る

3) 大会運営について

- セッションの準備を万全に

- パネル展示時間を長く、場所を広く

4) コミュニケーションについて

- 男女を問わず門戸を開く

- 在留外国人の参加

- 会員以外の参加

5) ポストコンgressツアーについて

- ツアーを選択的に

- 京都、奈良がよい

- 環境住宅などテーマにそった内容で

6) 日本を知ってもらうには

- 電車を利用する

- 日本らしいホスピタリティを

- 日本建築を会場にする

- 豊、竹、富士山のイメージ

- 先端と伝統、新旧の日本を見せる

その他、寄付や後援を募るための情報や手段が必要などの現実的な意見や、若い人達の参加を望む声が多数ありました。最後に小川副会長からの、継続こそ力、若い方が参加して欲しいとの挨拶で、3時間に及ぶ会が終了しました。



■助成研究報告発表会レポート

東京女性財団助成事業年次報告会に参加して

今村 芳恵

昨年12月7日に東京ウイングスで開催された第3回助成報告会は、全体報告会と分野別報告会から構成され、それぞれ、1995年度の助成対象であった自主活動19件、研究活動34件の中から代表として選ばれたものの発表が行われた。いずれも、日本の社会や国際関係における女性問題、男女平等問題を解決することをねらいとし、活動者や研究者の日々の生活に根ざした身近な問題をテーマとしてとらえたもの、或いは社会的現象を実験を通して得たデータの分析から理論的に構築し解き明かしたものなど、内容・手法は様々であるが、どれも真摯で意欲的な姿勢が伝わってくる発表であった。

そもそも、この東京女性財団は、男女平等の社会的風土づくりを目指して、1992年に東京都により設立された機関で、女性問題の解決に寄与する民間の自主的事業及び研究に対して、その経費の一部を助成する制度を実施している (UIFA JAPONの「すまいをめぐる女性—女性建築家の戦後史を辿りながら—」は1996年度の自主研究助成対象の1つ)。私にしても、「建築業界」という「男性社会」と見なされることの多い職場にあって、1985年に「男女雇用機会均等法」が制定されたとはいえ、組織や対人関係で、様々な形の性差別や不平等が厳然としてあることを日々の業務の中で感じる事が多い。

UIFA発足の地であるフランスでも、罰則規定を含んだ「男女職業平等法」を日本と同時期 (1983年) に制定しているが、「未だ女性は賃金が低く、条件の悪い職業についている」 (東京女性財団助成研究「均等法制定プロセスの比較研究」) という内容の報告もあった。UIFAの設立の目的が「女性建築家の社会的認知と地位の確立」であることを考えれば、そこに女性の社会的状況が縮図として現れているわけで、30年以上を経て、その間、多くの女性建築家の方々が活躍されているのに、社会や人々の意識の変革は遅く、私たちのなすべきことは、現在においても山のようにあるのではないかと感じる。

分野別報告会の席上、中国で新聞記者をしていた中国人女性の発言を紹介したい。言い回しは多少異なるかもしれないが、彼女の発言の主旨は次のようなことであった。「日本の社会 (会社) などで性差別があったり、異性をライバル視するのが不思議である。中国では自分のライバルは人間であり、男でも女でもない。」

女性問題や、男女平等問題が問われることのない社会が望ましい方向であると実感させられる。

■「すまいをめぐる女性—女性建築家の戦後史を辿りながら—」

中善寺紀子

この研究は、3人の女性建築家、林雅子・中原陽子・山田初江の各氏の住宅作品を中心に、会員達の作品も併せて分析しながら、その中にみえる〈女性〉の姿を追っている。1995年の日韓交流シンポジウムから同一テーマで行い、1997年、ハンガリーでのUIFA世界大会にも報告している。1988年、日本での世界大会に向けて、それ等を更に拡大させ、共通の財産として、又、今後の私たちの生き方を探るため、いろいろな視点から研究を進めていきたいと思っている。コアメンバーは、中原暢子・小川信子・今村芳恵・田中厚子・中善寺紀子。参加希望の方は大歓迎。連絡は中善寺まで。

(TEL 0429-24-6372, FAX 0429-24-3907)

■ドキュメント1 -UIFA日本大会に向けて(1996年11月22日~1997年1月15日)-

川嶋幸江

11月25日 (社)東京建築士会、UIFA日本大会について菊竹会長に協力依頼のお願い(吉田あこ・松川両理事)

11月30日 第10回海外交流の会開催(会員22名、非会員8名参加。詳細は本文参照)

12月4日 日本大会準備・実行にかかわる助成・寄付等に関し全体見直し・スケジュール等について、財務担当打合せ会(安藤・沖山・松川理事)

12月6日 (社)日本建築家協会、穂積会長に協力依頼のお願い(中原会長・松川理事)

12月7日 実行事務局組織のための1月15日開催のワークショップ担当打合せ会(吉田(洋)・渡辺(喜)・松川理事)

12月10日 (社)日本建築士会連合会より「後援名義使用許可願」の送付の要請を受ける。

12月10日 (社)東京建築士会、女性建築士委員会新旧委員交流会で、UIFAの歴史並びにハンガリー大会の報告及び日本大会のPRを松川理事が行う。(これは、11月20日に女性委員会から「全面的に支援する」旨のご返事を受けて、広報活動をかね、1月15日のワークショップ参加、及び入会呼びかけを行ったものである。)

12月20日 「みんなでやろう・国際会議のノウハウづくり」のサブタイトルでワークショップNo.1の案内を事務局から会員に郵送。

1月8日 第12回UIFA日本大会開催準備 ワorkshopNo.1の準備会を開催。4グループにわけ、グループ毎のテーマに基づき作業内容の検討。(松川・飯島・正宗・渡辺(喜)・小渡・東・吉田(洋)・山田(規)理事)

1月15日 1時30分~5時 ECOとしまで第1回ワークショップ開催。詳細は本文参照。

■UIFA大会のVTR、スライドについて

ハンガリー大会のVTR及びUIFA世界大会第1回~第10回までのスライドが出来ました。くわしくは事務局にお問い合わせ下さい。

■役員会の報告

第10回役員会(95年12月18日)役員9名出席 議題:助成研究及び海外交流の会、UIFA日本大会について。



11月22日 プレス発表

UIFA第12回世界大会(テーマ:環境共生時代の人・建築・都市)の日本開催について発表が行われた。11月25日、日刊建設工業新聞、日刊建設産業新聞、建設通信新聞に掲載。

(中原会長・松川・正宗・飯島理事)

■広報だより

第12回UIFA日本大会準備ワークショップ1は本号でお伝えしたように46人が狭い会場に集い大盛況。4つのテーブル各々に熱のこもった意見交換、ユニークなアイディアの提案、そして特筆すべきは日本大会に対する並々ならぬ期待と参加意識がはっきりと示されたことでした。コーヒープレイクもそこそこにグループ毎に成果をまとめ報告。タイトな時間に課題を終えた時、参加者の熱気の中に日本大会に向けての連帯感が芽生えていました。さて次のワークショップ2は4月に開催予定です。多数の方の参加をお待ちしています。

担当:飯島、川嶋、渡辺(喜)、緑川、柏原、田中